

令和元年

第3回町議会定例会

行政報告

(令和元年9月4日)

幕別町長 飯田 晴義

令和元年第3回町議会定例会が開催されるに当たり、当面する町政の執行につきましてご報告をさせていただきます。

(功労者について)

本年も10月1日に123年目の開町記念日を迎えます。

偉大な先人たちが理想郷の実現を目指し、不屈の精神で本町発展の礎を築かれて以来、町民各位の限りない郷土愛により、本町が十勝の中核的な町として発展を続けておりますことに対し、深甚なる敬意と感謝を捧げるものであります。

例年、開町記念日に本町の功労者を顕彰させていただいておりますが、過日、各団体等から自治功労賞として2名、社会功労賞として6名、産業功労賞として1名の方々の推薦をいただいたところであります。

今後は、9月6日に開催されます表彰者選考委員会の答申を経て、表彰者の決定をさせていただく予定といたしております。

(普通交付税について)

次に、本年度の普通交付税について申し上げます。

7月23日、国は令和元年度の普通交付税大綱に基づき、各自治体へ交付する普通交付税の総額を15兆2,100億円、前年度との比較では1,620億円、1.1%の増と決定いたしました。

本年度の算定にあつては、子ども・子育て支援施策や児童虐待防止、障がい者の自立支援などに対応した地域福祉施策等に要する経費が増額措置されたところであります。

こうした状況の下、決定されました本町の普通交付税額は54億2,075万円で、前年度との対比では1億8,917万1千円、3.6%の増となりました。

増額となった要因といたしましては、公債費に占める合併特例債償還費が前年度に比較して増となったことなどが増額となった主な要因と分析しております。

なお、本年度の決定額と当初予算計上額の比較におきまして、約1億6,000万円の留保財源が生じたところでありますが、今後の補正予算の財源として有効に活用し、特別交付税や町税など、他の財源の状況を勘案しながら、今後の財政運営を慎重に進めてまいりたいと考えております。

（定住自立圏共生ビジョンと総合戦略について）

次に、定住自立圏共生ビジョンと総合戦略について申し上げます。

平成23年7月に帯広市と管内18町村が締結した「定住自立圏の形成に関する協定」により、帯広市を中心市とする十勝定住自立圏が形成されました。

この圏域における具体的な取組内容につきましては、同年9月に「十勝定住自立圏共生ビジョン」として策定され、毎年度、各分野における取組状況の効果検証を行いながら、28年3月には新たな第2期共生ビジョンが策定されたところでありますが、本年度をもって計画期間が終了いたしますことから、現在、次期共生ビジョンの策定作業を進めているところであります。

また、平成28年1月に策定した「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましても、本年度をもって計画期間が終了するため、住民や産業界・行政機関・大学・金融機関・労働団体等の代表20名で構成する「幕別町創生総合戦略審議会」において、次期総合戦略の策定作業を進めてまいります。

今後につきましては、それぞれパブリックコメントの実施などを経て、令和2年度から令和6年度までの5年間の計画を策定することとしておりますが、次期共生ビジョンの策定に伴う「定住自立圏の形成に関する協定」の変更手続きにつきましては、来年3月定例会に提案させていただく予定といたしております。

（防災無線の導入について）

次に、防災無線の導入について申し上げます。

本町では、平成28年8月の台風10号の浸水災害や30年9月の北海道胆振東部

地震による長時間の停電時において、登録制メールやホームページ等を活用し、災害情報の発信を行いました。が、災害時等において、町民の皆さんに直接情報を届ける手法、いわゆるプッシュ型の情報提供に課題があったところであります。

このことから、これまでの情報伝達手法について、総合的に検証・検討を行い、災害時における町民の皆さんの安心・安全を支え、的確かつ迅速な情報の提供を図るため、プッシュ型の情報伝達手法となる防災無線を整備すべく、この度、所要の経費を補正予算として提案させていただいたところであります。

（幕別はたらき隊支援事業について）

次に、幕別はたらき隊支援事業について申し上げます。

近年の少子高齢化の進行により、労働人口の減少による経済の縮小等が懸念されていますが、一方では、働けるうちはいつまでも働きたいという高齢者が約4割いると言われており、全国的に元気な高齢者の社会参加の促進が重要であるとされております。

このことから、本年度モデル事業として「幕別はたらき隊支援事業」を実施し、特に労働力不足が深刻である介護分野と農業分野を対象に「介護アシスタント」と「まぐべつ援農隊」として、2、3時間あるいは半日など高齢者の生活スタイルに合わせ、元気な高齢者の働く場の提供と、労働力不足に悩む事業者の橋渡しをすべく事業を行うことといたしました。

モデル事業の内容といたしましては、「介護アシスタント」は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及びデイサービス等の介護事業所において、介護の資格を必要としない掃除、話相手、食器洗い、配膳などの軽作業を介護現場の補助スタッフとして活動していただくものであり、8月29日、30日に開催した説明会には、合計12名の方に参加をいただき、町内6か所の介護事業所と個別面談が行われたところであります。

「まぐべつ援農隊」は、農業に興味のある元気な高齢者の方を「まぐべつ援農隊」

として募集し、援農協力会との連携の下、労働力が不足している農家へ照会し、農作業を手伝ってもらい、地域農業の応援団として活動していただくとするものであり、8月27日に町内の農家で馬鈴薯の収穫体験会を開催したところ、2名の応募があり、1名が参加されましたが、2名の方に隊員として登録いただいたところであります。

今後は、既に町ホームページに「幕別はたらき隊」のコーナーを設けておりますが、更なる事業の周知について、老人クラブ連合会や商工会、農業関係団体など関係機関と連携するとともに、SNSや紙媒体の活用、出前講座の実施及び体験会の開催などを通して、引き続き隊員の募集に努めてまいります。

（農作物の作況について）

次に、農作物の生育状況について申し上げます。

本年は、春先から晴れの日が多く、平均気温が高めで、日照時間も長めでありましたが、6月下旬からの日照不足や7月の降水量不足により、一部、生育が鈍ったものの、8月の好天に恵まれたことから、総じて順調に生育しているところであります。

9月1日現在の農作物の生育状況につきましては、秋まき小麦の収穫が、昨年より4日早い7月22日に始まり、8月4日に終えたところであり、10アール当たりの粗原単収につきましても、約11俵と平年を上回る収量と報告を受けております。

その他、馬鈴しょは、3日早く生育し、1個重が大きい傾向で収穫作業も平年より早く始まっており、てん菜は、5日早く根周の肥大も良好で、大豆も4日早く生育するなど、概ね順調であります。小豆につきましては、生育が3日遅く、着莢や莢の伸長が遅れているところであります。

また、飼料用作物につきましては、牧草、サイレージ用とうもろこしともに、平年並みに生育しておりますことから、良質な粗飼料の確保が期待されるところであります。

いずれの作物におきましても、今後、収穫最盛期を迎えるに当たり、好天に恵まれ、農業者の皆さんの的確な管理により、農作業事故が無く、豊穰の秋を迎えられますこ

とを心から願っております。

(公共工事の発注状況について)

次に、公共工事の発注状況について申し上げます。

8月末現在の公共工事の発注済額は、10億756万円で、発注率にいたしますと70.0%となっております。

現在までのところ、土木関係では、南2丁目通、忠類24号線などの道路整備工事のほか、いなほ公園ローラー滑り台更新工事を、また、水道関係では、道道豊頃糠内芽室線栄橋水道管移設工事や札内配水池耐震補強工事などの発注を終えております。

このほか、建築関係では、春日東団地公営住宅建設工事のほか、農業者トレーニングセンター改修工事やアルコ236配管改修工事などの発注を終えております。

今後は、春日東団地公営住宅外構工事や大豊浄水場機器更新工事等の発注を予定しており、安全に工事が進められるよう適切な工期設定と適時発注に努めてまいりたいと考えております。

(スポーツ合宿誘致について)

次に、スポーツ合宿誘致について申し上げます。

昨年度から、スポーツ交流人口の拡大や地域の活性化を図ることを目的に「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を実施しておりますが、本年度もその一環として、「幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会」が主体となり、道東では初となる車いすラグビーの公式戦と、慶應義塾体育会野球部の夏季合宿を誘致いたしました。

車いすラグビーにつきましては、7月27日、28日の2日間にわたり、札内スポーツセンターを会場に「第21回車いすラグビー日本選手権大会予選リーグ」が開催され、東北、高知県、北海道から各1チームずつ計3チームが出場し、2試合ずつの総当たり戦で6試合の熱戦が繰り広げられたところであります。

会場には、延べ241名が訪れ、車いす同士の激しいぶつかり合いに、大きな歓声

が上ったほか、車いすラグビー体験会・試乗会や元パラリンピアンの方の三阪洋行氏によるトークショーも行われ、その様子は国内外に動画配信されるなど、東京2020パラリンピック競技大会に向け、障がい者スポーツの理解促進や車いすラグビーの魅力を伝えることができたものと考えております。

慶應義塾体育会野球部の夏季合宿につきましては、監督、選手、スタッフなど総勢48名が、8月2日から8日までの7日間の日程で、昨年に引き続き、幕別運動公園野球場で行われました。

この間、小中学生を対象とした野球教室や学習指導、選手と監督による「チームをまとめるためのリーダー像」をテーマとした特別講演会を開催したほか、8月4日に実施いたしましたパークゴルフ家族大会にも12名の選手が参加し、町民との交流を深めることができたものと認識いたしております。

また、合宿期間の終盤に行われた東海大学札幌キャンパスや北海学園大学とのオープン戦では、普段見ることができない高いレベルの野球を多くの皆さんに観戦していただいたところであります。

スポーツ合宿誘致に当たりましては、スポーツ合宿誘致実行委員会をはじめ、車いすラグビーでは、90名を超えるボランティアの皆さんが大会運営にご協力をいただき、感謝とお礼を申し上げる次第であります。

町といたしましては、昨年から実施している合宿等誘致の課題・効果等の検証を行い、今後のスポーツ合宿等の誘致につなげてまいりたいと考えております。

以上、当面する諸課題等につきまして、ご報告をさせていただきましたが、議員の皆様には、引き続き町政の執行に対しまして、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、行政報告とさせていただきます。